

# 来週の「売り物」記事はこれ

MAINICHI

新毎日

2014年12月19日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

名人万作、天才萬齋

狂言界 親子鷹の芸道二代 21日(日)



人間国宝の和泉流狂言師、二世野村万作さん(83)は3歳で初舞台を踏み、今年、「芸歴80年」を迎えます。伝統的な表現を追求するだけでなく、海外公演、果てはテレビCMなど、数々の新しい試みにも挑戦しています。人は彼を「名人」と呼びます。万作さんの長男、萬齋さん(48)もまた、3歳で初舞台に立ってからは、父



と同様、映画に進出したり、シェークスピア劇の狂言化に挑んだりするなど、今では最も華のある狂言師としての地歩を固めています。技のキレの高さ、あくなき向上心から「天才」とたたえられることもあるとか。室町時代に始まった狂言。万作、萬齋父子のように、親から子への厳しい芸の継承が澁のように積み重なって、狂言600年の歩みになっているようです。「名人」と「天才」——。父子の稽古、舞台に密着、過去から現在、そして未来へつなげていこうと奮闘する2人のドラマを描きます。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

朝刊2面の大型連載「戦後70年に向けて」は23日から新しいシリーズが始まります。会川晴之編集委員の「核回廊を歩く イラン編」。前回の「パキスタン編」に続き、特派員経験の長い会川記者がイランなど中東諸国や日本を取材。国際社会から核開発の疑いを向けられているイランの秘められた事実や現状を伝えます。

「未(ひつじ)年」を前に知りたい「羊をめぐる物語」

眠る時に羊を数える理由、ジンギスカン料理誕生の秘密……

夕刊2面特集ワイド 22日(月)



「羊が1匹、羊が2匹……」と数えて眠ろうとした経験を持つ人も多いと思いますが、その由来をご存知でしょうか。本当に眠れるのでしょうか。「ジンギスカン料理」は日本が発祥ですが、なぜ日本で生まれたのでしょうか。羊とはどんな動物で、いつごろから飼われてきたのでしょうか。そして、未年はどんな年になるのでしょうか。まもなく迎える未年を前に、「食」「歴史や言い伝え」「えと」の3テーマで記者が取材し、意外に知らない「羊をめぐる物語」を報告します。

## 全国高校駅伝競走大会開催

女子：21日午前10時20分スタート 男子：21日午後0時半スタート

「男子第65回・女子第26回全国高校駅伝競走大会」(毎日新聞社、日本陸上競技連盟など主催)が21日に京都市で開催されます。女子は都道府県代表の47校、記念大会となる男子は地区代表を合わせた58校が出場します。男子の初出場は関根学園(新潟)、大阪(大阪)、つるぎ(徳島)の3校。都道府県予選の最速タイムは埼玉栄(埼玉)の2時間5分48秒、地区大会では九州学院(熊本)が九州大会で2時間4分36秒をマークしました。女子の初出場も白鷗大足利(栃木)、高松工芸(香川)、有明(熊本)の3校。予選の最速記録は常磐(群馬)の1時間7分54秒でした。真冬の都大路を駆け抜ける高校生の熱戦を22日朝刊で詳報します。



## 「女の気持ちをたずねて」 おんなのしんぶん面 22 日 (月)

おんなの  
しんぶん



宮崎県串間市の林和江さんは、夫が運転していたトラクターに巻き込まれ、左脚を失う大けがをしました。「なぜあの時助けた」と夫をなじることもありました。今でも通院が続いていますが、夫婦の絆は深まっています。今ある命に感謝して。



## 住・照明の工夫で生活豊かに くらしナビ面 20 日 (土)



住まいの照明に対する、日本人の意識は、海外と比べるとまだまだ低いのだとか。生活を豊かにするために、工夫の余地がありそうです。「一室一灯」から、複数の照明を活用して部屋の明るさを調整する「多灯分散」型に変えることで部屋の雰囲気も変わります。明かりの選び方、使い方を専門家にききました。

## 就活力・ミスマッチを埋める くらしナビ面 22 日 (日)

2015 年新卒の就活は「売り手市場」で、学生側に有利な状況が目立ちましたが、今なお就職先を探している学生もいます。一方、中小を中心に知名度不足から求人に苦労している企業も多くあります。企業選びの視野が狭まっている学生と、多数の情報に埋没しがちな企業を結びつけ、採用につなげる取り組みを紹介します。



## 王将戦挑戦者プレーオフ 社会面 26 日



第 64 期王将戦リーグ (毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社主催) の挑戦者決定プレーオフが 25 日に東京・将棋会館で行われる。郷田真隆九段と羽生善治名人が渡辺明王将 (30) =写真=への挑戦を争う。郷田は王将戦初挑戦、王将 12 期の羽生は 2 期連続の挑戦がかかる。渡辺は 3 連覇を目指す。

## 人口減少と地方活性化テーマの連載スタート

地方都市の半数が消滅するとされる日本創生会議の提言が昨年 5 月、衝撃を与えました。その対策として東京への一極集中是正と地方活性化が喫緊の課題と認識されるようになり、政府も地方対策に本腰を入れ始めました。

そこで、年末から人口減少と地方活性化をテーマにした 10 回程度の連載を始めます。若者が流入し続ける東京の裏側で進む超高齢化の波。人口が減りながらも、活性化に向けた胎動も起きつつある地方都市。記者が課題の現場を訪ね、将来の処方せんを示します。